

2006年7月13日

記者各位

出光興産株式会社

大規模ハイテク農場で 微生物防除剤「ボトピカ水和剤」の採用が拡大しています ～ 福島県(有)サンライズトマト原町における事例紹介～

当社(本社:東京都千代田区、社長:天坊昭彦)が2005年9月に発売した微生物防除剤「ボトピカ水和剤」は、全国の大規模ハイテク農場20カ所に採用され、本年9月末には発売初年度の売上高が3,000万円に達する見通しです。

大規模ハイテク農場は、温度や湿度、養分などをコンピューターで制御し、1年を通して均質な野菜や果物を生産しています。

さらに、化学農薬の使用回数に含まれない微生物防除剤「ボトピカ水和剤」を採用することで、消費者の“**食の安全・安心**”への要望に答えています。

トマト、ブロッコリー、キャベツなどを生産する大規模ハイテク農場のひとつである有限会社サンライズトマト原町(所在地:福島県南相馬市、社長:酒井盛男)では、トマト生産に「ボトピカ水和剤」をロボット自動散布機で定期的に散布し、灰色かび病を防除することができました。

また、ブロッコリー生産においては、土壌改良剤「ツインガード」を全自動播種機に種とともに投入、散布することで、丈夫な根が形成され、作物の増収、品質の向上を図っています。

同社酒井社長からは、「予防で使って安定した栽培ができた」と、好評をいただいています。



(有)サンライズトマト原町のトマト栽培

当社は、今後さらに「ボトピカ水和剤」「ツインガード」をはじめとする微生物資材の普及に努め、農家や消費者の“**食の安全・安心**”への要望に答えてまいります。

【商品の概要】

「ボトピカ水和剤」(農薬登録:2005年4月27日、農林水産省登録:第21500号)

野菜類の灰色かび病、いちご、ピーマンのうどんこ病に農薬登録のある微生物防除剤。

灰色かび病、うどんこ病の発病前に散布することで、有効成分であるパチルスズブチリス菌が作物の表面に付着し、病気から予防する。

「ツインガード」

自然界に生息する微生物を有効成分とする。根の表面に共生微生物を定着させることで、丈夫な根の形成を図り、作物の健全な生育を助ける土壌改良剤。

以上

～ お問い合わせ先 ～

出光興産株式会社 広報室(西羅・吉田) TEL:03-3213-3115

URL <http://www.idemitsu.co.jp>